

NO.	タイトル	道東海域におけるアサリ漁業への津波被害調査
氏名(所属): 長谷川夏樹・鬼塚年弘(北海道区水産研究所・生産環境部・生産変動グループ)		
学会名等: PICES2012 年次総会		開催日: 平成 24 年 10 月 12~21 日
<input checked="" type="checkbox"/> 頭発表	ポスター発表	備考

【発表内容】 北海道東部沿岸でさかんなアサリ漁業も津波による大きな被害を受けました。水研センターでは、津波前よりこの海域のアサリ主産地である厚岸湖で様々な調査を行っており、津波発生後も地元機関と連携して津波の影響やその回復過程を追跡する調査を行ってきました。



厚岸湖のアサリ漁場の津波前(上)と津波後(下)

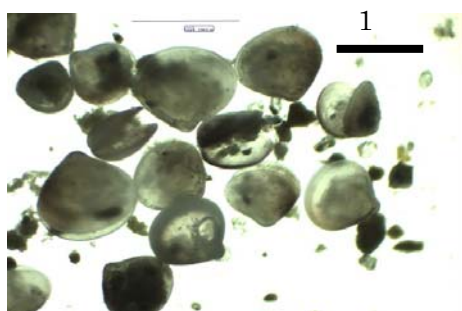
津波前は平らに整備されていた漁場が、津波によってアサリとともに砂が流失し、でこぼこした地盤がむき出しの状態になった。



津波 1 ヶ月後のアサリ漁場

死んでしまったアサリ(上)や波打ち際に打ち寄せられた空殻(下)がたくさん確認された。

アサリ漁場では、津波によりアサリや砂が漁場外に流失し、大きな被害が発生しただけではなく、津波 1 ヶ月後に津波から生き残ったアサリの大量死も発生しました。アサリの栄養状態の指標となる肥満度などの数値が津波後に徐々に低下していたことなどから、この大量死は浅場に打ち寄せられたり、漁場から砂が流失し砂に潜れなかったりしたために、アサリが衰弱したことが原因であると推察されます。さらに、被害漁場では、津波後の夏季にアサリの成熟不良が確認され、津波はアサリの産卵に影響を及ぼしていました。このような甚大な被害にもかかわらず、津波から 1 年後の 2012 年 3 月の調査では津波後の産卵に由来する稚貝が大量に見つかり、それらはその後も順調に成長を続けています。アサリ資源の回復に必要な稚貝を、ほかの海域からの移植ではなく、地元で確保できたことは、この地域のアサリ漁業の復興に向けた大きな一歩と言えます。一方で、漁場の復旧作業等に伴うと考えられる水質の変化も観測されていることから、持続的なアサリ漁業のためにも漁場環境に留意しながら取り組んでいくことが必要です。



津波後の 2011 年夏季に生まれたアサリ稚貝 2012 年 3 月(左), 8 月(右)